

支 部 だ よ り

日本金属学会関西支部の活動

関西支部 支部長 田 中 功* 関西支部 事務局 八 尾 秀 樹**

関西支部は滋賀，京都，大阪，兵庫，奈良，和歌山の6府県を所管地域として1941年5月に設立され，伝統と進取の気風に富む地域性を生かした活動を行っている．現在は一般財団法人大阪科学技術センターニューマテリアルセンター内に事務局を置き，基本的に全ての事業を一般社団法人日本鉄鋼協会関西支部と共同して行っている．支部会議と支部委員会において，予算・決算の審議や事業企画，支部推薦の検討などを行っている．図1は支部委員会の様子である．

関西支部では例年，産学から講師を招いて，本多光太郎記念講演会，湯川記念講演会，支部講演会を開催し，会員の関心が高いテーマについて講演を頂いている．一例として，支部講演会では2019年2月は児玉憲治様(リガク)に「ファンダメンタルパラメータ法を用いた波長分散型蛍光X線分析装置の最近の進歩」，2018年2月は小溝裕一様(高輝度光科学研究センター/大阪大学)に「Spring-8の産業利用」について講演いただいた．また，関係者の多大なるご支援とご協力の下，関西地区の研究機関や企業の現場の見学会を実施している．これらの講演会や見学会の際に，会員の交流や情報交換の場として，交流会や懇親会を開催している．しかし，残念ながら，新型コロナ感染防止の観点から，2020年度はこれらの行事の実地開催は全て中止せざるを得なかった．2021年度も同様の懸念がある．

関西支部独自の取り組みとして，材料セミナーの開催がある．産学の委員から構成されるセミナー事業運営委員会において，会員の要望の多いテーマを3件程度採り上げて企画している．過去10年の内容は，表1に示したとおりである．2020年度と2021年度はコロナ禍の下，WEB上での開催となった．電子顕微鏡や計算機シミュレーションなどの実地講習ができなかったのは残念であったが，座学については出張の必要がなくなり参加しやすくなったという意見があり，実際に参加者数は増加した．ポストコロナ時代では，WEB開催を上手に採り入れ，他支部や他学協会との共同開催を積極的に進めることも一案となろう．

さらに関西支部では，材料物性工学談話会，鉄鋼プロセス研究会，マテリアルデザイン研究会，関西分析研究会，材料化学研究会の5つの研究会がそれぞれ年に数回の研究会・見学会を実施して，会員の相互啓発に努めている．また，学生を中心とした若手のポスター発表会を併催し，優秀な発表に対する表彰を行っている．



図1 支部委員会風景 (2017年10月，当時の新日鐵住金㈱和歌山製鉄所にて)．(オンラインカラー)

表1 関西支部材料セミナーの内容．

年度	テーマ
2021	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②放射光による組織観察・分析の基礎と応用
	③材料科学におけるマテリアルズ・インフォマティクスの最近の発展
2020	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②電子顕微鏡による組織観察・分析の基礎と応用
	③材料系のための第一原理マテリアルデザイン入門
2019	①電子顕微鏡による組織観察・分析の基礎と応用
	②材料系のための第一原理マテリアルデザイン入門
	③技術者のための鉄鋼材料入門
2018	①電子顕微鏡による組織観察・分析の基礎と応用
	②技術者のための鉄鋼材料入門
	③材料系のための第一原理マテリアルデザイン入門
2017	①金属材料の腐食損傷の基礎とその評価
	②技術者のための鉄鋼材料入門
2016	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②金属材料の腐食損傷の基礎とその評価
	③透過型電子顕微鏡(TEM)による微細組織解析の基礎と応用
2015	①金属材料の腐食損傷の基礎とその評価
	②入門講座：鉄鋼材料の組織と力学特性
2014	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②金属材料の腐食損傷の基礎とその評価
	③材料における拡散-基礎および鉄鋼材料における拡散と関連現象
2013	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②科学技術者・研究者のためのEBSDによる方位解析技術の基礎と応用
	③透過型電子顕微鏡(TEM)による解析技術の基礎と応用
2012	①技術者のための鉄鋼材料入門
	②科学技術者・研究者のためのEBSDによる方位解析技術の基礎と応用
	③透過型電子顕微鏡(TEM)による解析技術の基礎と応用

(2021年7月30日受理)[doi:10.2320/materia.60.661]

* 京都大学大学院工学研究科；教授 ** 一般財団法人大阪科学技術センターニューマテリアルセンター